

HOT NEWS

雲仙復興事務所

平成26年9月29日

「地震発生！作業員は直ちに避難せよ！！」
'平成新山溶岩ドーム崩壊を想定した避難訓練を実施'

発信元

雲仙復興事務所
砂防課 前田 薫

平成26年9月12日、[※]溶岩ドーム崩壊を想定した、合同避難訓練を実施しました。当日は、監視所からの放送及びフラッシュライト点滅による合図をきっかけに、直轄砂防工事及び文化財調査作業員約60名が一斉に避難を開始し、各現場毎で定めた避難場所まで移動し、移動時間の把握と、避難体制に関する問題点などの抽出を行いました。

現在、火山活動は終息している平成新山の山頂斜面には、約1億m³の溶岩ドームが不安定な状態で堆積しており、地震や降雨による崩壊が懸念されています。

現場では、溶岩ドームの監視と安全体制、避難体制も整備し作業は行っていますが、毎年継続して訓練を行い、更なる防災意識の向上に努めたいと思います。



平成新山
溶岩ドーム

赤松谷川2号導流堤防 埋蔵文化財調査

スピーカおよびサイレン

フラッシュライト：異常時点滅

回転灯：作業中点灯

管内放送スピーカ・避難指示ライト

訓練です。
やや強い地震が発生しました。
作業員は、直ちに避難せよ！！



年配の作業員さんも、迅速に移動中。

避難状況(埋蔵文化財調査)



作業員27名避難完了です。
移動時間は、1分30秒。

想定では、ここまで2分で到達するぞ！！早く中へ！！



自前シェルターへ迅速な避難
(赤松谷川11号床固工工事)

(※メモ)

旧大野木場小学校が火砕流で被災した、9月15日(平成3年)は、メモリアルデーとして、毎年この時期に噴火災害の継承の集会在、現在の大野木場小学校で開かれており、今年の開催日となった9月12日に合わせ、避難訓練を開催しました。



火砕流で被災した(旧)大野木場小学校

こちらで酸素濃度が把握でき、...濃度が下がったら、常設のポンペを開栓し、酸素濃度の調節など...

現在、溶岩ドーム観測の精度向上や地域住民への情報伝達手法など、委員会を開催し...検討しています。



溶岩ドームの現状と大野木場砂防みらい館の機能説明

'訓練参加者からの感想・意見'

- 車で逃げる際は、大野木場監視所の上流側ゲートを一時的に解放できれば、より安全側へ緊急避難できる。
- 水無川1号砂防堰堤下流部では、緊急放送は殆ど聞き取れず、また、フラッシュライトは確認できない。
- 作業場のすぐ近くに避難シェルターがあるのは安心。ただ、本当に溶岩ドーム崩壊に安全が確保できるのか不安。